

VUV・SX 高輝度光源利用者懇談会 令和3年度総会議事録

1. 日時：令和4年1月8日（土） 12：10～12：50
2. 会場：オンライン（zoom）
3. 参加人数：38名（12:10）48名（12:30） 委任状24通
4. 議事・報告

①Zoomのトラブルにより、開始が10分遅れた。

②虻川匡司会長より年頭の挨拶がなされた。

③議長に奥田太一教授（広島大）を選出した。

④虻川匡司会長（坂本一之編集委員長（阪大）の代理）より、次回ニュースレターは来年度8月に発行予定であること、またコロナ禍での海外放射光施設の実験（海外の放射光施設の方、海外放射光を利用したユーザー）について執筆依頼中であることが報告された。

⑤山本達会計委員長（東北大）より、令和2年度の会計報告があり、承認された。また、令和3年度の会計中間報告がなされた。

⑥虻川匡司会長より令和3年度の活動報告がなされた。

⑦原田慈久教授（東京大学物性研究所軌道放射物性研究施設長）より、次世代放射光の進捗状況について報告がなされた。

i) これまで SPring-8 BL07LSU に敷設されていた装置を次世代放射光施設 BL07U、BL08U にナノ光電子分光・軟X線共鳴非弾性散乱と雰囲気下オペランド光電子分光をそれぞれ移設し、アップグレードを行う。

ii) 2022A をもって共同利用を一時停止するため、過去最大の申請課題となった。

iii) 東大の次世代放射光活用のコンセプト・取り組み・利用スキームに関して、説明がなされた。

⑧その他、総合討論で質疑がなされた。

i) 虻川匡司会長から次世代放射光への移行後の本会の立ち位置について提起があり、幹事会において次世代放射光への移行を見据えた本会のあり方を検討するWGを作る、提案がされた。WG内では、VSX分野の将来を見通した新しい研究・新しい研究を実現するBLや共同利用に関する議論が今後行われる予定である。原田慈久教授から、本会が次世代放射光だけでなく、日本全国のVSX全体を対象とした議論をしていく場になるであろうと、コメント頂いた。

⑨以降、Zoom のトラブルにより、途中で配信が終了した。

以上